

PRESS RELEASE

2023年5月12日

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町二丁目1番地
会社名 そせいグループ株式会社
(コード番号 4565 東証プライム)
代表者 代表執行役社長 CEO
クリストファー・カーギル
問い合わせ先 IR & コーポレートストラテジー部
西下進一郎
電話番号 03-5210-3290 (代表)

2023年12月期第1四半期(1月-3月) ビジネスハイライトおよび連結業績について

当社グループは本日、2023年12月期第1四半期(1月-3月)における事業の概況および連結業績を発表しましたので、お知らせします。2023年12月期第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)全文は[こちら](#)をご覧ください。

当社代表執行役社長CEOであるクリストファー・カーギルは次のように述べています。「当社グループは、2030年までに日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品になるというビジョンを実現すべく、必要な基盤の構築を引き続き進めています。

当社が東証グロース市場から東証プライム市場へ上場市場区分を変更し、TOPIXに採用されたことは、ビジョン実現に向けた重要な第一歩です。市場変更により、バイオ医薬品業界に精通し長期的な視点を有する、より多くの機関投資家の皆さまとの建設的な対話を通じて、当社グループの成長戦略を加速できると確信しています。昨年始まったこの戦略は、(1)創薬プラットフォームの強化、(2)提携の推進、(3)研究開発体制の転換、(4)日本での商業化ビジネスの構築、の4つを柱としています。

また、ESGにおける重要課題(マテリアリティ)の特定を行い、当社として初めてのESGレポートを発行しました。これらが当社グループの事業運営や企業文化、バリューに組み込まれるよう取り組みを行っていきます。

今年、これまでに日本と英国のメンバーが達成したことを非常に誇りに思うと同時に、今年中に2つ以上の自社開発プログラムの臨床試験が開始され、当社の幅広い開発パイプラインにさらなる進展があることを楽しみにしています。」

PRESS RELEASE

2023年12月期第1四半期（1月-3月）ビジネスハイライト

- **2023年3月15日、東証グロース市場から東証プライム市場へ上場市場区分を変更** — さらに、2023年4月27日、主に東証プライム上場銘柄を対象とした、日本の主要な株価指数である東証株価指数（TOPIX）に採用。
- **初めてのESGレポートを発行** — 当社グループのESG活動の優先順位や進捗状況を記載し、当社グループの従業員はもとより、幅広い社会や地球環境に対して当社がよりよい形で関わるために行っている取り組みをまとめたもの。
- **当社提携先のTempero Bio社がアルコールとその他の物質使用障害を対象としたTMP-301の臨床試験実施に関するFDAの承認を取得** — TMP-301（旧開発コード：HTL0014242）は、当社グループが創出し Tempero Bio社に導出した、経口投与可能な選択的 mGluR5 ネガティブアロステリックモジュレーター（NAM）候補化合物。
- **Centessa社がORX750をナルコレプシーおよびその他の睡眠障害に対するベストインクラスとなる可能性がある新薬開発候補品として選定** — ORX750は、当社グループのSBDDプラットフォームを利用して開発中の、経口投与が可能なオレキシン受容体2（OX2R）の選択的作動薬で、現在、前臨床開発および新薬臨床試験開始申請（IND）に向けた研究開発活動を実施中。
- **新任取締役および執行役の選任** — 2023年3月23日開催の定時株主総会およびその後の取締役会において、富田英子氏（前職はプリストルマイヤーズスクイブ Global Regulatory Sciences Intercontinental ヴァイスプレジデント）が当社取締役に、キャンデル・チョン（前職は当社シニアヴァイスプレジデントコーポレートストラテジー）が執行役副社長 CEO 室長にそれぞれ選任

2023年12月期第1四半期（1月-3月）の業績ハイライト

- 売上収益は、前年同四半期（2022年1月-3月）比176百万円減少し、943百万円となった。これは主に、前受収益振替額が増加したことにより契約一時金及びマイルストーン収入が増加した一方、ロイヤリティに関する収益およびその他に関する収益が減少したことによるもの。
- 研究開発費は、前年同四半期（2022年1月-3月）比153百万円増加し、1,957百万円となった。これは主に、研究開発体制の強化に伴う支出の増加によるものであるが、円安による影響もあった。
- 一般管理費は、前年同四半期（2022年1月-3月）比245百万円減少し、1,109百万円となった。これは主に、構造改革費用が減少したことによるもの。
- 営業損益は1,964百万円の損失（前年同四半期（2022年1月-3月）は2,206百万円の損失）となった。営業損失が減少した主な要因は、販売費及び一般管理費ならびに売上原価が減少したことに加えて、その他の収益が増加したことによるもの。
- 税引前四半期損益は、1,863百万円の損失（前年同四半期（2022年1月-3月）は2,497百万円の損失）となった。これは上述した複合的な影響によるもの。
- 四半期損益は1,402百万円の損失（前年同四半期（2022年1月-3月）は2,070百万円の損失）となった。これは主に、上述した複合的な影響によるもの。

PRESS RELEASE

- コア営業損益¹は 1,465 百万円の損失（前年同四半期（2022 年 1 月-3 月）は 1,240 百万円の損失）となった。
- 2023 年 3 月 31 日における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ 419 百万円減少し、66,138 百万円となった。

以上

Sosei Heptares について

当社グループは、G タンパク質共役受容体（GPCR）をターゲットとした独自の StaR[®]技術ならびに構造ベース創薬（SBDD）技術から生み出される新薬候補物質の探索および初期開発にフォーカスした、国際的なバイオ医薬品企業グループです。当社グループは神経疾患、免疫疾患、消化器疾患、炎症性疾患など複数の疾患領域において、幅広いパイプラインの構築に取り組んでいます。

これまでアッヴィ社、アストラゼネカ社、バイオハイブンス社、ジェネンテック社（ロシュ・グループ）、GSK 社、Kallyope 社、イーライリリー社、ニューロクライン社、ノバルティス社、ファイザー社、武田薬品工業株式会社、Verily 社などの大手グローバル製薬企業および新興バイオ医薬品企業と提携しています。当社グループは、東京に本社を置き、英国のケンブリッジに研究開発施設を有しています。

「Sosei Heptares」は、東京証券取引所に上場しているそせいグループ株式会社（証券コード 4565）のコーポレートブランドです。「そせい」、「Heptares」、当社グループのロゴおよび StaR[®]は、当社グループの商標または登録商標です。

詳しくは、ホームページ <https://soseiheptares.com/> をご覧ください。

LinkedIn: [@soseiheptaresco](#)

Twitter: [@soseiheptaresco](#)

YouTube: [@soseiheptaresco](#)

¹ コア営業損益は、中核事業の経常的なキャッシュ創出能力を示すために、重要な非現金支出費用や一時的な費用を調整した代替的な業績評価指標